

津郡江川村ではイモホリと云ふてゐる。

ヲ山城丹後越前では峯のことを云ふ、これに因む地名も枚舉に遑ない程である、岩代會津

附近ではソネと云ふ、又之れに因む地名頗る多い。(完)

(三三二—二七)

世界戦後の地名考 (四)

瀧川規一

アクリントン (Accrington)。英蘭ランカシアの選舉區にして開市場の都會。ハインドバーン (Hindburn) 河畔に在り LMS 鐵道によればマンチェスタ (Manchester) の西北二三哩にある。紡績業の一中心地であり漂白業、綿布捺染業、染物業の工場、化學藥品、織物器械の製造場等があり産業の重要都會である。附近には石切場、炭坑がある。セイント・ゼームス・チャーチ (St. James's Church) と呼ぶ教會があり一五五四年の創立にして一七六三年の再建である。市公會堂、取引所、機械研究所その他の建

物は皆近代設備である。ヘンリ二世 (一一三三—八九) の治世中にその名初めて現はれ、一八七八年には自治體の特許を與へられた。議會に一名の代議士を擇出す。開市日は火金土の三曜日である。人口四萬四千に近い。

アセルダム (Aeldama)。地名の意味はアラマイク語で血の場所と云ふ意である。ゼルサレム (Jerusalem) の南方にある一地點であつて現代のハクエドダム (Haked Dam) と云ふ處である。聖書にある無縁墓地 (Potter's field) 若くはジュダ (Judas) が主を裏切る爲めに賠つた

と稱せられる地である。

十字軍の時代には聖地巡禮者の死せる人々を此處に葬つた。今日では諸外國人の墓地となつてゐる。

アケア (Achaea)° ペロポネサス (Peloponnesus) の北海岸にある希臘の古代の地區の名。

北はコリンス (Corinth) 灣によつて限られ山岳地帯である。海岸に沿うて肥沃の地が細長く延び乾葡萄の主要産地である。商業中心地はパトラス (Patras) でありバイザンティン帝國時代にはこの地方は專制治下の一州であつた。一四六〇年トルコ人によつて征服せられた。ホーマの叙事詩ではアケア人と云へばトロイ人に對照して全希臘人を云ふ。有史時代になつてアケアと云へばペロポネサス州の住民に限られてゐた。アケア聯盟 (The Achaean League) と呼ばれるものはもと十二都市の聯盟であつたが漸次擴張して紀元前一四六年迄には全希臘國に及んだ。この年にアケアは羅馬に隸屬しその一の管

轄州となつた。

アケラウス (Achelous)。希臘國內を流るる最長い河である。今日はアスプロボタモ (Aspropotamo) と呼ばれ又は白河と云はれてゐる。ピンダス (Pindus) 山脈に源を發し南に流れ、アイオニア海 (Ionian Sea) に注ぎ、エトリア (Aetolia) とアカルネニア (Acarmania) の境をなす。全長一三〇哩ばかりである。希臘神話にてはアケラウスはオシアナス (Oceanus) とテシス (Tethys) の兩神の間に生れた河の神である。

アケロン (Acheron)。古代地理學にてはこの名を有する河が各地にある。最有名なるものはエピラス (Epirus) にあるアケロン河であつて、アケルシア (Acherusia) 湖を経てアムブレシア (Ambracia) 灣に注ぎ、或る時代にては下界に通じて居るとの迷信があり非常に恐れられた河であつた。伊太利にも同名の河がある。神話にてはヘーデス (Hades) にアケロン河がある。

アキ・ババ (Achi Baba)° ガリポリ (Gallipoli)

にある山である。山の脊は殆ど六百呎の高さを有し山嘴を兩側に送り出して海に至つて居るが故に半島の西端を横切つて一つの牆壁を形成してゐる。全山脈は殆ど不毛にして岩石を露出して居る。トルコ人は一九一五年にこれに要塞を設け英國はこれを陷落せしめんと企てた。ガリポリ戰役の一部である。

アキル (Achill)。一名イーグ・アイル (Eagle Isle)。愛蘭自由國 (Irish Free State) の最大なる島である。西海岸の沖にありマヨ (Mayo) 郡の一部分をなし、アキル・サウンド (Achill Sound) と稱する狭き海峡によつて本土と隔たる。面積五七平方哩。全島山岳にて充たされ、考古學上の遺跡である列柱上に冠する大扁石 (Cromlech) 及び石の環列等がある。人口約五萬餘。

アチン (Achin) 又は Atcheen)。一名コタラジャ (Kotarajar)。蘭領東印度の西北スマトラ (Sumatra) の都會である。和蘭語でアッチェ

(Atjeh) と呼ばれアチン河畔にあり。オレン (Olehleh) 港より鐵道にて四哩。アチン國の首府である。アチン國は面積約二萬五百平方哩。首府アチンは黄金山 (Gold Mountain) の麓にあり山の高は五、六六〇呎。一八二四年英國はアチン國及びスマトラにあるその他の領土と共に和蘭に割讓した。土民蜂起をなしたので一八七三年に和蘭政府は初めて遠征軍を送つて鎮壓し、一八八〇年和蘭民政署が設けられたが、土人の敵對行爲は一八九六年、九八年、及び一九〇一―四年の最近に至るまで繰返へされてゐる。和蘭政府が極東人の侵入を恐るる所以も亦土民の反抗心の利用を憂ふるによるか。

アッハ (Achor)。ケナン (Canaan) の谷である。聖書に傳ふる處によればゼリコ (Jericho) 陷落後、鹵獲品を隠蔽した廉によりアカン (Achan) が石にて殺られた處である。

アハレ (Achray)。蘇格蘭のパーシア (Perthshire) にある小湖である。カトリン (Katherine) 湖

とヴェンナツェル (Vennachar) 湖の間に位す。文豪スコット (Scott) の作詩「湖上の美人」(The Lady of the Lake) 中に書かれて居るが故に有名となつて居る。湖の長さ約一哩四分一、廣さ約四分三哩であつて釣に好い場所である。

アチレアレ (Acireale) ° シシリ (Sicily) 島の東岸にある古き都會であり僧正の管區である。カタニア (Katania) の東北にあり鐵道によつて九哩エトナ (Enna) 山の東南山麓にある。アチス (Acis) 河口にあり市名は河名よりつけられたものである。重要な溫泉があり海水浴場として人の集る處である。ポリフィマス (Polyphemus) の岩窟及び岩山がありガラチア (Galatea) の洞窟等がある。

アクウオース (Ackworth) ° 英蘭のヨークシア (Yorkshire) のウエスト・ライディング (West Riding) にある教區である。LMS 鐵道 LNE 鐵道の連結線上にありポンフリット (Pontefract) の南三哩半の處にある。友盟協會 (Society of

Friends) の經營に係る學校がありジョン・ブライト (John Bright) その他有名なるクエーカー派 (Quakers) の人々の輩出した處である。人口五萬に近し。

アコマ (Acoma) ° 北米合衆國のニュー・メキシコ (New Mexico) にある印度土人村落。アルブケルケ (Albuquerque) の西南西八〇哩の地點にある。合衆國中土人の村落として最古き時代より繼續的に住居されてゐる處であるとして有名である。村落は大溪谷 (Canon) の河床二五〇呎の高さの處にあり地盤は砂岩 (Sandstone 又は Mesa) よりなり溪谷はこの地點に於て海拔六、〇四〇呎に達し迂曲せる階段道によつて到達することが出来る。村落の周圍には政府が印度土人の爲めに保留地約十萬エーカーを設け保護を加へてゐる。

アコンカゲア (Aconcagua) ° 南米の最高峰である。ヴァルパライソ (Valparaiso) の北東約九十哩にあり死火山である。チリ (Chile) とアル

デエンチナ (Argentina) の國境線をなすアンデス (Andes) 山脈にあり最高峰はアルデエンチナ國に屬し二三、〇九七呎の高さである。最初の登山者は一八九七年に登山したツルブリッゲン (Zurbruggen) である。アコンカグア河が山脈の南面傾斜から源を發し二〇〇哩流れて太平洋に注入してゐる。

チリ國內の一つの國名でアコンカグアと稱する地方がある。面積五、四〇六平方哩でありアンデス山脈より太平洋に達してゐる。首府をサン・フェリペ (San Felipe) と云ひ人口約十三萬二千。

アカラ (Acre) 一名サン・ジアン・ダクラ (St. Jean d'Acre) 又はアッカ (Akka) バルスタイン (Palestine) の海港にして都會である。ゼルサレムの北北西八〇哩にありカルメル山 (Mt. Carmel) の麓にある海角上にある。鐵道によつてハイファ (Haifa) とダマスカス (Damascus) とに連絡す。海港は一部分砂で埋まり船貨

は大抵ハイファに行く。貿易品は穀類油類等である。城壁は十字軍によつて築かれ今日廢墟同様になつてゐるものを除いては古代の遺跡の殘存せるものが尠い。

この地は舊譯聖書ではアッコ (Acho) と呼ばれ新譯聖書ではプロレメイス (Ptolemais) と呼ばれ、またバルスタインの鍵 (The Key of Palestine) として知られてゐたが、六三八年にアラビア人によつて占領された。其後十字軍の手に移つたが一二九一年には再び失はれ一五一七年にはトルコ人によつて奪はれた後に衰微に陥つた。復活された後佛蘭西の貿易業者はこゝに殖民し一七九九年にはナポレオンこれを包圍しサア・シドニスミス (Sir Sidney Smith) の部下の水兵等の援助を得てトルコ人はナポレオンを破つた。一八三二年イブラヒム・パシャ (Ibrahim Pasha) はこれを攻略し一八四〇年まで保持してゐたがこの年に英澳土三國艦隊によつて奪取され、翌年トルコに返還された。世界

戦争に際しては一九一八年九月二十三日英國騎兵隊によつて占據された。人口六千五百。

アクロセローニア (Acrocerania)。希臘語の akros は最高の意、keranos は雷電の意。アルバニア (Albania) の海角の名である。今日グロッサ岬 (Cape Glossa) 又はリンゲッタ岬 (Cape Lingetta) と呼ばれてゐる。古典時代には水夫仲間では悪評のあつた處であり拉典詩人ホレーヌ (Horace) は悪名の岩が其處にありと云つてゐる。英詩人シェリ (Shelley) は作詩アリシユザ (Arethusa) 中にこの海角のことを述べ詩人テニスン (Tennyson) も亦希臘の旅 (Travels in Greece) に關して作詩 To E. L. 中にこの海角に就いて書いてゐる。

アクロポリス (Acropolis)。希臘語の akros は最高の意、polis は都市の意。希臘の山上要塞である。この語はもと岩山の頂上にある敷地の意であつたが漸次城塞そのものを意味するやうになり殊にアゼンヌ (Athens) のアクロポリス

を意味するやうになつた。アゼンヌのアクロポリスは最高の點に於て海拔五〇〇呎の長い岩石の集合である。西側を除いて他の三方は懸崖である。入口はプロピレア (Propylaea) と呼びペリクク大理石 (Pentelic marble) と呼ばれる大理石で築かれた城壁があり五つの城門がある。

ペルシア戦争の間に諸建物は破壊され、サイモン (Cimon 紀元前四四九年役) によつて再建され、ペリクリス (Pericles 紀元前略四四九—四二九) の時代に希臘建築の粹を集めて裝飾を施した。先づ處女神アシーナ (Athena) の殿堂がありこれをパーシノン (Parthenon) と云ふ。一八一二年にエルデン卿 (Lord Elgin) はパーシノンから大理石像を英國に運び今日大英博物館に保管されてゐる。これをエルデン大理石 (Elgin Marbles) と稱してゐる。次にエレックシーム (Erechthium) と云ふ殿堂がある。海神ポセイドン (Poseidon) とアゼンヌの神話的王

様であるエレックシアス (Erechtheus) とを祭つてある。次にニーケ・アプテロス (Nike Apteros) 即ち「無翼の勝利」を祭れる殿堂がある。次にペリクリスによつて建てられたオデアム (Odeum) と云ふ音楽堂がある。次にダイオナイサス (Dionysus) の劇場がありアスクリピウス (Asclepius) 又は Aesculapius) の殿堂がある。立像の主要なるものを挙げればアシーナ・プロメコス (Athena Promachos) の巨大なる青銅の立像がありバシノン殿堂内には有名なる彫刻家フィディアス (Pheidias 略紀元前四三〇年没) が象牙と黄金とを以つて作つたアシーナの立像がある。エレックシアム殿堂内にはカリアチーズ (Caryatides) として知られてゐる處女の立像六基がある。

アクチアム (Actium)。古代希臘の海岸にあるアカーネニア (Acarnania) の海角である。紀元前三一年九月二日アントニ (Antony) とクレオパトラ (Cleopatra) の軍隊と、アグリッパ

(Agrippa) の指揮するオクタヴィアンの軍隊とが此處に會戦し一大海戦の結果アントニは敗北しオクタヴィアンは羅馬統帥權を執るに至つた。

アクトン (Acton)。英蘭のミッドルセックス (Middlesex) にある自治都會である。倫敦バツチングトン (Paddington) 停車場より西四哩にある。GW鐵道 LMS鐵道及びMCL鐵道の三鐵道によつて達し得、その他電車及び乗合バスによつて到達し得る倫敦の郊外地域であり住宅地及び産業地である。自動車の部分品附屬品製造所、機械工場飛行機製造所等があり其他洗濯工場染物工場等がある。また飛行場がある。また扶助年金局 (Ministry of Pensions) の大規模な建物がある。市の公會堂があり一九二九年開設の機械學校がある。

十八世紀に於てアクトンの藥料鑛泉はチエルトナム鑛泉 (Cheltenham waters) と同質の鑛泉であるとの評判があつた。十六世紀に於て既に

エリザベス女皇の行幸がありながらく人氣があつた。有名なる英國の僧リチャド・バクスタ(Richard Baxter)小説家ヘンリ・フイールデン(Henry Fielding)小説家ブルワ・リットン(Bulwer Lytton)亦この地に居住した。一九二一年一選舉區となり一人の代議士を選出す。人口約六萬三千。

新著紹介

○地理學年報

第一卷 東京文理科大学地理學教室内地
理學年報編輯所編 六月 日黒書店發行
定價一回八十錢

本邦地理學界が急に發展して來て文獻の現はれること世界一とも思はれる位で、關係雜誌や論文集をそろへることさへ一通りでなく、まして之を讀破し、了解することが困難になつた。恐ろかなりえらい勢力のある地理學愛好家でも地理學論文を大體でも精讀する人はあるまい。茲に幸なることには地理學年報が今村學郎氏の主幹の下に公にされたことで第一部研究及第二部展望の二綱目がある。此の年報の主要な目的はその展望にあるらしく主として昭和七年に於ける文獻の解題若しくは解題を兼ねた批判である。下村氏の地圖類には二

つの地圖の解説を挙げ、小牧氏の先史地理には考古學方面の論文の多數を解題し、大塚氏の地形學に於ては地形、地史に關する多數の論文を解釋すると共に批判してゐる。最後の二節は吉村氏の湖沼學、福井氏の氣候學である。人文地理については年報第二卷から解題されるさうである。年報が續刊されて讀書力のない紹介者の如きものに便ずると共に現代本邦地理學の趨勢が一般に了解されゆくことを望んで止まい。(ナ)

○郷土地理研究

内田寛一著 雄山閣版 定價二圓

本書は畏友内田寛一君が郷土、郷土科學乃至地理教育などに發表された論文集といふべきものであるが、菊版二八六頁の手頃な參考書として、近來の郷土地理學書のうち特に注目すべき良書である。予は昨年郷土教育主催の講習會に招かれて同君と久し振りに面話し、いろ／＼の蒐集を見せていただいた事であつたが、今本書の發刊に接し、更らにその欣喜を再びするの感がふかい、同右の此方面に於ける蘊蓄については讀者の既に熟知せらるゝ所であるから。敢てこゝに本書の特徴を述べる必要を認めないが第二編第一章住家に關する種々の考證は、著者獨特の壇場がほの見えてゐて敬服に堪へない處が多い、予は今にしてかゝる好著の出たことを報告すると同時に著者の筆硯の愈々盛んならんことを祈るものである。(藤田)

○地理學批判

川西正鑑譯補 有恒社發行